
発達理論の学び舎

Back Number: Vol 249

Website: 「[発達理論の学び舎](#)」



目次

- 4961. 今朝方の夢
- 4962. ゆとりとくつろぎのある日々
- 4963. ルート・セッターという創造的な仕事
- 4964. 馬鹿げた勉強から解放される夢
- 4965. ボルダリングの聖地フォンテーヌブローに向けて
- 4966. かくも美しき人生
- 4967. 一時帰国に際しての不思議な感情
- 4968. 銀座滞在計画
- 4969. 格別な落ち着きを持つ土曜日の朝: 第6回目のボルダリングに向けて
- 4970. 銀座滞在中の映画観賞について: 今朝方の夢
- 4971. 明後日に迫る日本への一時帰国
- 4972. 悟りへ至るゲームから解放されることを示唆する夢
- 4973. 明日に迫った一時帰国
- 4974. 一時帰国に際して: 和書の購入に向けた書店巡り
- 4975. 今朝方の夢: ダイモーンの要求事項
- 4976. 一時帰国の準備が整って
- 4977. 【日本滞在記】一時帰国に向けた出発の朝に
- 4978. 【日本滞在記】一時帰国の朝に見た夢
- 4979. 【日本滞在記】それぞれの人生
- 4980. 【日本滞在記】スキポール空港に向かう列車の中で

4961. 今朝方の夢

今朝はゆっくりと午前6時に起床した。2時半あたりで一度目を覚ましたが、そこで起床することはなかった。昨夜は9時半過ぎにはベッドの上になっていたのだから、2時半に起床しても何も問題なかったのかもしれないと思う。二度寝をしたこともあり、今朝方は幾つかの印象的な夢を見ていた。

夢の中で私は、元サッカー日本代表のある方(HN)と一緒に豪華客船の旅に出かけていた。厳密には、その方と一緒に旅に出かけたというよりも、船の上で偶然に出会ったと言った方がいいだろう。その船には日本人が主に乗船していながらも、外国人の姿もちろほら見えた。デッキの上で海風に当たっていると、その方の姿が見えたので、私はおもむろにその方に近づいて声をかけた。その方は思っている以上に気さくであり、私たちはすぐさまその場で打ち解けた。

近々イタリアと一緒に旅に出かけようという話になり、私は嬉しくなった。というのも、私はまだイタリアに足を運んだことがなかったからである。だがよくよく考えてみると、シチリア島とミラノには行ったことがあるような記憶があり、それについて伝えると、その方は「シチリア島もミラノも立派なイタリアですよ」と述べた。それは当たり前なことなのだが、その時の私の中では、一瞬、シチリア島もミラノもイタリアではないと思っていたようだった。ちょうど食事時になったようであり、私たちは船の中の大きなレストランに向かって歩き出した。そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私は人工芝のフットサルコートにいた。そこでは現役と元プロサッカー選手が混じってフットサルに興じており、私もそこに加えてもらっていた。

元日本代表のフォワードのある方(NT)が、「今日のゲームを動画にしてそれを世の中に共有することによって得られた収益は、全てセネガルに寄付しよう」と述べた。厳密には、動画を世に出すことによって得られた収益は一旦自分たちが管理し、そのうちの100万円分をセネガルに寄付し、残りはサッカー関係のプロジェクトに寄付しようということをその方は述べていた。私たちはそれに賛成し、そこからフットサルに興じた。しばらくフットサルに興じていると、大学時代のフットサルサークルの先輩二人がその場に現れた。

二人は私と同じ学部にも所属しており、今から授業があるとのことであり、私も一緒に授業に参加しないかと声を掛けてきた。スケジュールを確認すると、私はどうやら別の授業があるらしかったが、何

の授業があるのかはスケジュール帳に明記されていなかった。そのため私はパソコンを立ち上げ、何の授業を履修するのかを調べようと思った。二人の先輩は経営組織論の授業がこれからあるらしく、私は金融か会計の授業があるらしかった。今朝方はそのような夢を見ていた。

今朝方の夢に関しても、実際にはもう少し印象的な場面があったのを覚えている。だがそれらは印象的でありながらも既に記憶からこぼれ落ちており、感覚としてだけ残っている。

未だ夢の中の自分は、夢を振り返っている自分とは異なる意識を持っているようであり、別の自分が一つの大きな意識の中に存在していることを不思議に思う。夢の中でも自覚的な意識を持つ自己が形成される日はいつやってくるのだろうか。フローニンゲン:2019/9/19(木)07:00

4962. ゆとりとくつろぎのある日々

時刻は午前7時を迎えた。辺りがようやく明るくなり始めている。少しばかり雲が見えるが、昨日ほどの雲ではない。そういえば、ここ2、3日の間に2回も虹を見た。虹が見えた時間は短かったが、虹が見えた時には仕事の手を止めて、虹をぼんやりと眺めていた。ぼんやりと外の世界を眺めることを意識的に行うようになって、自分の心身がよりくつろいだ状態になっていることに気づく。

昨夜の就寝前には、日中においてぼんやりとする時間を設けたことによる恩恵のようなものを感じていた。一日の充実感と幸福感がこれまで以上に増し、思わず笑ってしまったのである。それぐらいに、日中にゆとりを設け、ぼんやりと外の景色を眺めることや、壁に掛けられた絵画作品をぼーっと眺めることの効能を実感したのである。今後はそこに、音楽をぼーっと聴き入るということを加えてもいいかもしれない。

要諦は、ぼーっとすることを通して対象に没入することである。空をぼーっと眺めているとすぐに気づくことだが、ぼんやりと空を眺めていると、いつしか自分が空に吸い込まれるかのように空と一体化している感覚を得ることがよくある。「よくある」というのはかなり控えめな表現であり、実際には毎回である。今の私は、絵画作品や音楽作品と向き合う都度没入体験をするわけではなく、そう考えてみると、自然の偉大さを改めて感じる。

自然からの呼びかけに身を任せてみよう。自然の中にくつろぎ、自然と一体化することによって安らぎを得よう。その安らぎが充実感や幸福感を生み出し、創造活動の源泉となる。

5日後に日本に一時帰国する際にも、日本の景色をぼんやりと眺め、そこにくつろぎ、一体感を感じたい。都市部に滞在する際には景色との一体化を感じることは難しいかもしれないが、どこにしようとも空を眺めることはできるのだから、都会の雑踏を歩く際にも空を仰ぎみたい。ぼんやりと空を眺め、空になるのである。

ゆとりとくつろぎ。そして安らぎ。さらには、そこからの没入体験と充実感と幸福感の湧出。それらをより大切にしながら今日からの日々を過ごしていこう。きっとその先に、まだ見ぬ自己と新たな景観が待っている。フローニンゲン:2019/9/19(木)07:00

4963. ルート・セッターという創造的な仕事

今、澄んだ青空がフローニンゲンの街の上を覆っている。それはこの街を覆っているのだろうか。空それすらも街の一部だと見なすことはできないだろうか。きっとそう見なすべきだ。

フローニンゲン上空の空は、この街と分け難く結びついている。いや、空はその街であり、街はその空なのだ。それに気づかなかった自分がどうかしているだけの話だったのだ。

今この瞬間に書斎の窓から見える空は本当に美しい。朝日が今昇ろうとしているまさにこの瞬間の空には、穏やかさと固有の輝きがある。

先ほどふと、いつかボルダリングのルート・セッターになってみたいということを思った。少し前にルート・セッターという仕事があることを知った。ルート・セッターというのは、ボルダリングジムの課題や大会の課題を設計する人のことを指す。確かに誰でもルート・セッターになれるという側面もある一方で、ルート・セッターに関する国際資格が存在していることも確かだ。

この資格を取得するためには、ボルダリングに関する知識のみならず、実際にある一定程度のレベルの壁を登れる技術を持っている必要がある。今の私にとっては、資格要件となっているレベルは

非常に高度である。2019年の今現在、日本人でこの国際資格を持っているのは5人しかいないそうだ。

そもそも私がルート・セッティングに関心を持ったのは、ボルダリングの壁を登ることは作曲と似ており、そこから派生して、ボルダリングの課題を作ることは曲を作ることと似ているだろうと思ったからだ。端的には、ルート・セッティングというのは、実に創造的な活動だと思ったのである。

今すぐにはではないが、自分のボルダリング技術が高まり、壁を登って楽しむだけでなく、課題を作ることによって他の人にそれを楽しんでもらいたいということを実現させるために、ルート・セッターの国際資格を取得するために動きだすかもしれない。

赤レンガの家々が穏やかな朝日に照らされ始めた。ぼんやりと神々しい光の世界を眺めている。耳を澄ませば、小鳥たちの鳴き声が聞こえて来る。彼らの鳴き声もすっかり秋らしくなった。私たちの内側と外側が季節の進行と共に変化していくのと同じく、小鳥たちもそうした変化を経験しているのだろう。フローニンゲン:2019/9/19(木)07:48

4964. 馬鹿げた勉強から解放される夢

時刻は午前5時半を過ぎた。今朝は夢の最後の場面で見せた衝動的な振る舞いによって目覚めた。早速ではあるが、今朝方の夢について振り返っておきたい。

夢の中で私は、開放的なグラウンドの上にいる。不思議なことに、そのグラウンドには数多くの机と椅子が置かれており、黒板もあった。空の下で授業を受けることができるというのは、ある意味では贅沢だが、そうした経験が自分にはなかったため、最初は不思議な感じがしたのである。

グラウンドの最後列に置かれた机に私は座っており、右横には小中高時代の親友(SI)がいた。黒板の近くには、中学校時代にお世話になっていた数学の女性の先生が立っていた。どうやら、今から管理会計学の試験があるらしい。公認会計士の試験で要求されるレベルの管理会計学の計算問題を今から5題ほど解くことが要求された。私は大学時代に管理会計学のゼミに所属しており、一時期公認会計士の資格試験の勉強もしていたため、これから出題される問題に対してそれほど不安はなかった。むしろ、数学の問題を解くのと一緒ぐらいの楽しみな気持ちであった。

試験問題が配られ、いざ問題に取り掛かってみると、計算方法を忘れてしまっているものが随分と多く、出だしから手こずっていた。とにかく慎重に問題を解いていこうと思っていた私は、一問一問をじっくりと集中して解き始めた。すると、隣にいた友人が独り言を述べたり、私に話しかけてきたりして、私は全然集中できなかつた。「試験中だぞ」と私が述べても、彼は気になげずに独り言をブツブツと述べ続けていた。

第1問の製造原価に関する問題が後半に差し掛かったところで時計を見ると、残り時間が40分を切っており、それでも問題は残り4問あった。私はもはや満点は取れないと思い、少々落胆した。そんな気分が陥っていたところ、友人は相変わらず独り言をブツブツと述べたり、時折私に話しかけてくる。我慢の限界に到達した私は、彼を手で突き飛ばし、黙って前を向いて試験を受けるように促した。そこで夢から目覚めた。

目覚めた瞬間の私は、掛け布団を友人と見立てて、思いつき掛け布団を蹴飛ばしていた。ひょっとしたら夢の中の私は、彼を手で突き飛ばしたのではなく、足で突き飛ばしていたかもしれない。

夢の中で感じていたのは間違いなく焦りの感情であり、同時に、自分の計算力が落ちていることに対する落胆であった。また、公認会計士の二次試験で出題されるようなレベルの問題で満点を取らなければ自分らしくないという自己認識を持っていた点も印象に残っている。

試験問題を解く際の裏紙にT字を描き、期首仕掛品、当期製造原価、期末仕掛品と書きながら計算問題を解いていた光景も印象に残っている。起床してからちょうど1時間経つが、大学受験や各種の資格試験が要求するような馬鹿げた勉強をもはやしなくてもいいということに対して大きな安堵感を覚えている自分がいる。

昨年まで米国の大学院の入学に向けてGRE試験を受けていた自分からしてみると、今年からようやくそうした馬鹿げた試験や勉強から解放されたのだと思う。本当によろやくだ。もう二度とあのような馬鹿らしい勉強はしない。残念ながら現代社会は、馬鹿げた勉強を強いる機会が多すぎる。フローニンゲン:2019/9/20(金)06:05

4965. ボルダリングの聖地フォンテーヌブローに向けて

時刻は午前6時半に向かって動いている。いや、時は動いていないのかもしれない。あるいは、デジタルな数字が進行するよりもはるかに緩やかな時の流れがここにあると言えるかもしれない。

朝日が昇るまでにまだ随分と時間が有る。あと1時間は暗いまだろう。

昨日は午後に、かかりつけの美容師のメルヴィンの店に行き、髪を切ってもらった。来週の火曜日から日本に少々一時帰国することになっているので、帰国前にさっぱりとすることができた。

昨日も髪を切ってもらっている最中に様々な話をした。メルヴィンはいつも私の髪を切ってくれる時は、通常の30分ではなく、60分ほどの枠を確保してくれる。それはいつも私たちの会話が尽きないからである。

メルヴィンと出会ってから、オランダでの生活はより充実したものになったように思う。フローニンゲン大学に在籍していた時は、ピーターというオランダ人と仲が良かったが、彼はもうフローニンゲンを離れてしまい、今はアムステルダム郊外にいる。フローニンゲン大学を離れて以降、ピーターと連絡を取ったことはない。一方でメルヴィンは、今私にとって親友と呼べるほどの存在になっている。彼と出会ってから随分と人生が変わった。

彼の思想や生き方にはいつも共感と感銘の気持ちで一杯であり、毎回多くのことを学ばせてもらっている。だいたい毎月1回ほど髪を切ってもらっていたのだが、メルヴィンは毎回新たな気づきを与えてくれる。気づきを与えてくれるからというわけでは決してないが、彼は私にとってとても大切な友人だ。そのようなことを昨日改めて思った。

メルヴィンはちょうど先週まで彼女とフランスに旅行に出かけていた。中でも、ボルダリングの聖地フォンテーヌブローでの体験は格別だったそうだ。フォンテーヌブローは、ボルダリング発祥の地とも言われており、なんと25,000を越す自然壁の課題があり、ボルダリングを楽しむことができるエリアは200を超える。日中は自然の岩と向き合ってボルダリングを楽しみ、夜は満天の星空を眺めながらキャンプをして自然を満喫していたそうだ。

自然を好む私にとってみれば、それは本当に贅沢な時間の過ごし方であり、ぜひとも自分もいつかフォンテーヌブローにボルダリングしに行こうと思った。するとメルヴィンから嬉しい提案として、ボルダリング仲間を誘って一緒にフォンテーヌブローに行く計画を練っているので私もぜひとのことだった。

フローニンゲンからパリ郊外のフォンテーヌブローまでは車で6時間ほどであり、それほど遠くないとのことである。フォンテーヌブローは、現在私が通っているジムでも採用されているフレンチグレードの発祥の地とも言われており、ボルダリングをする者にとってはメッカのような場所だ。メッカの巡礼に向けて、明日もまたジムに通ってボルダリングを楽しみながら技術を向上させたい。メルヴィンと彼の彼女も明日ジムに来てくれるとのことだったので、三人でまたボルダリングを楽しみたい。フローニンゲン:2019/9/20(金)06:40

4966. かくも美しき人生

時刻は午前7時を迎えた。そろそろ早朝の作曲実践を始めたい。

いつも私は起床してからすぐに作曲をするのではなく、ヨガをして身体を目覚めさせ、その後日記を執筆してから作曲に取り掛かるようにしている。ヨガを通じて身体をほぐすことと日記を執筆することは、作曲をする上で欠かすことのできない準備なのだと改めて知る。

今朝のフローニンゲンの空にはちぎれ雲が浮かんでいる。早朝の気温は6度と非常に肌寒い。

来週の火曜日から日本に一時帰国するのだが、東京の最低気温はまだ20度近くあることに驚く。私が帰国する前日には、なんと最高気温が30度に達するらしく、まだ夏の世界である。幸いにも、日本に到着する日からは気温が落ち着くようである。

親友のメルヴィンとの昨日の会話を思い出している。「人生はかくも美しきものなのか」という話で盛り上がったことを思い出す。メルヴィンと私の人生がこのような形で交差し、共鳴しあっていることに対して、昨日は二人で驚いていた。それは喜びに満ちた驚きである。

私は何か引き寄せられるようにオランダにやってきた。そして、メルヴィンとの出会いもまた何か引き寄せられたかのような感じがする。そんな出会いを果たした友人のメルヴィンと、これからオランダ国内のボルダリングジムを一緒に巡る計画について話しあった。なにやら、ユトレヒトにいいジムがあるらしく、フローニンゲンのお隣の町であるルーワーデンにもいいジムがあるらしい。

お互いのスケジュールを見て、今度まずはルーワーデンの街のジムに行くことになった。フローニンゲンからルーワーデンまでは車で50分ほどの距離であり、メルヴィンが車を出してくれるらしい。メルヴィンの彼女のスシもボルダリングが趣味であるから、三人でこれからオランダ国内のジムを巡ることが楽しみだ。

ボルダリングを紹介してくれたのは何よりもメルヴィンであり、その点については本当に感謝の言葉が尽きない。ボルダリングが私の人生にまた新たな息吹を与えてくれたことを考えると、メルヴィンは私の人生を変えてくれた恩人だとも言える。そんなメルヴィンと近々ボルダリングだけではなく、バスケットをすることになった。昨日バスケットの話も話題に挙がったため、今度バスケット好きのメルヴィンの友人を集めてストリートバスケットをすることになった。

なにやら良いコートが近くにあるらしい。来週から日本へ一時帰国するため、すぐにはバスケットができないが、オランダに戻ってきてからバスケットをすることが楽しみだ。スリー・オン・スリーができれば理想だが、ツー・オン・ツーでも十分に楽しいだろう。

サンフランシスコに住んでいた時代に、ジョナサンという友人がバスケットに誘ってくれたあの日のことを思い出す。ジョン・エフ・ケネディ大学時代の友人とは、定期的にツー・オン・ツーのバスケットを楽しんでいた。西海岸の太陽の光を存分に浴びながら、バスケットに興じていたあの日のことがとても懐かしい。バスケット仲間のジョナサン、ジョン、ガイは元気にやっているだろうか。フローニンゲン:2019/9/20(金)07:29

4967. 一時帰国に際しての不思議な感情

日本に一時帰国するのが久しぶりのためか、心が高揚している自分がいるのかもしれない。それが現れてのことか、ここ数日間は、深夜未明に目を覚ますことがある。今朝は深夜12時と2時に目が覚め、結局今日の起床は5時半であった。

毎回日本に帰る際には不思議な感覚がする。端的に言えば、いつも期待感と寂寥感の入り混じった感覚がするのである。前者の感覚は容易に想像がつく。だが、後者の感覚は幾分想像を寄せ付けない側面があるように思う。

日本に到着した時に、どこか物寂しさを感じる自分の魂。そしてそれは、日本からオランダに戻るときにも感じる。それはアメリカで生活をしていたときに、アメリカから日本に行く際や、日本からアメリカに戻る際にも感じていた感覚である。

謎の寂寥感。謎の物寂しさ。

実はこれは孤独感につながるのではないかとハタと気づかされた。自分にとって日本は、強烈な孤独感を感じさせてくれる最良の国なのかもしれない。

早朝目覚めて考えていたことがそのような内容のものになるなんて、昨夜の自分には想像できなかった。昨夜はとても清々しく、幸せな感覚になる出来事があった。

早いもので、4年前に日本に一時帰国した際に作ったクレジットカードの更新期限が迫ってきており、今回の日本滞在期間に新しいカードを発行してもらい、それを受け取ってオランダに戻りたいと考えていた。一旦カード会社に問い合わせをしたところ、更新審査に7日から10日間ほど必要とのことであり、まずは電話で手続き依頼をして欲しいと言われた。その電話を昨夜オランダ時間の午後9時頃に行った。

日本で作った二枚のカードをオランダで使っていると、セキュリティーの都合上時々使用が止められることがあった。カードそのものや番号が盗まれ、誰か別の人が日本国外でそのカードを使っているとコンピューターが判断するらしく、それによって使用が止められることがあるのだ。オランダへの住所変更届を長らく出していなかったため、そうしたことがよく起こっており、その際にはいつもコールセンターに電話をして対処してもらっていた。今回の新規のカード発行に際してもコールセンターに電話をした。

以前言及したことがあるように、今私が主に使っているカードはアメックスのプラチナカードであり、これはとても利便性の高いカードである。特にこのカードに付帯している、世界の様々な空港のラウ

ンジを無料で使えるプライオリティ・パスは重宝しており、旅の友になっている。ただし、オランダではアメックスが使えない店もあり、その際にはもう一枚同時に作ったマスターカードを使っている。今回はそれらの二枚のカードの更新手続きをコールセンターに依頼した。

プラチナカードの方のアメックスは24時間対応サービスが付いており、オランダの現地時間の夜の9時、つまり日本時間の朝4時でも対応してもらえることは有り難かった。対応して下さったコールセンターの女性はとても親切であり、本来はマスターカードの方は日本時間の午前9時から午後5時までの時間にしか対応を受け付けていないとのことだったが、アメックスの方の会員特権によって二つのカードの更新を同時にしてもらうことが出来た。24時間対応とはいえ、日本時間の午前4時に親切な対応をして下さったコールセンターの方に対する感謝の念が尽きなかった。

私はいつも、コールセンターの方が最初に述べる名前を覚えておき、最後には名前を呼びながらお礼の言葉を述べる。今回はそうしたお礼の言葉だけでは足りず、電話を切った後にも、その方の名前を呼びながら笑顔で感謝の言葉を述べている自分がいた。その時の自分はひどく幸福だった。そんな出来事が昨夜にあった。フローニンゲン:2019/9/21(土)06:30

4968. 銀座滞在計画

昨夜の幸福感をもたらしてくれる出来事について振り返っておきながら、結局、一時帰国に伴う寂寥感ないしは孤独感についてはあまり言及できていなかったように思う。欧米での暮らしも既に8年目を迎えたが、毎回日本に帰る際に感じるこの感覚の正体は未だに謎である。正体のみならず、その感覚の性質すらもまだ判明していないと言えるかもしれない。

実家のある山口県に戻った瞬間には安堵感があり、絶えず平穏な心があるのだが、東京に戻った瞬間には常に寂寥感と孤独感が勝つ。東京は自分が生まれた場所であり、10年以上もそこで生活をしてきた場所であるから、特別な思いがあるのは確かだが、東京に行くといつも自分の内側の心が波立つ。そこで芽生える感情はかなり危険なものだ。

寂寥感と孤独感の先には感じてはならない感情があり、それをひとたび感じてしまうと冷静さを失ってしまう可能性がある。具体的にどのような行動を促そうとする感情なのかはあえて述べないが、かなり危険な感情であることは間違いない。私ができるだけ東京に近寄らないようにし、長居しないよ

うにしているのはそのためである。今回の日本滞在においても、東京に滞在する期間は必要最低限に留めている。その期間においては当然のごとく人と会うことはせず、自分のペースで静かに過ごしていく。

今回は諸々のことを考えて、銀座のホテルに5泊することにした。近くにはオーガニックスーパーがあり、ボルダリングジムがある。世界の街に訪れる時と同様に、今回もオーガニックスーパーが近くにあるかどうかを確認し、今回からはその条件に加えて、ボルダリングジムが近くにあるかどうかも確認した。岐阜、大阪に滞在する時も同様に、近くにオーガニックスーパーとボルダリングジムがある。

食と運動は相性がいいのか、今のところその二変数を設けても、オーガニックスーパーとボルダリングジムに近い良いホテルを見つけることができる。とはいえ、日本からオランダに戻ってきた翌月に足を運ぶ予定のヴェネツィアではそれはうまくいかないかもしれない。その点についての調査は再度行うことにしよう。

日本に向けて出発するのは4日後の火曜日の朝である。前日の月曜日の午後には部屋の掃除をしよう。年末にマルタ共和国に行く前にも大掃除をしようと思っているが、今回の一時帰国前にも念入りに掃除をしておく。オランダに戻ってきた時に清潔感を感じられるように、綺麗な状態にしておこう。

今夜か明日の夜には、再度滞在中の計画を見直し、計画を詰めておこうと思う。どの日にどこに行くのかはだいたい決まっており、いつも私は一日に一箇所ほど行きたい場所に行き、そこでゆっくりすることが多い。

今回はメガネの修理や買いたいものがあるために銀座を選び、銀座から歩いていける距離内で東京滞在は終わりそうだ。もしかすると、クライミングをテーマにしたドキュメンタリー映画「フリーソロ」を観に、渋谷か新宿に行くかもしれないが、それらの街に行く際には相当に心の準備が必要であり、覚悟して電車に乗る必要がある。前回の一時帰国中は品川に滞在しており、朝に電車を使おうとしたところ、1年以上Suicaを使っていなかったため、ロックされており、改札機に捕まった。駅員のところに行きロックを解除してもらった後に改札機を通ろうとすると、再び捕まった。今度はチャージ金

額の不足であった。チャージ残額は確か10円ほどであり、駅員の方も笑うほどの金額の少なさだった。そのような記憶を懐かしく思い出す。

今回は確か1500円ぐらいは入っているのではないかと思う。いずれにせよ、日本での最初の数日間はできるだけ銀座周辺で生活をし、「フリーソロ」は渋谷や新宿以外でも、豊洲の映画館で観れるようである。ここ最近では映画を全く見ていなかったが、幾つか見たい映画が日本で上映されているようなので、何度か映画館に通うことになりそうだ。フローニンゲン:2019/9/21(土)07:00

4969. 格別な落ち着きを持つ土曜日の朝:第6回目のボルダリングに向けて

驚くほど穏やかで輝かしい朝の世界が広がっている。土曜日の朝の落ち着きは本当に格別である。

フローニンゲンの街は、平日も穏やかであるが、土日はなお一層のこと穏やかである。私は、朝のこの感じが好きである。

今日は晴天の予報が出ており、今、朝日が赤レンガの家々に照っている。今日はボルダリングの第6回目の日である。

先週末は、デン・ハーグに住む日本人の友人とその友人がわざわざフローニンゲンまで足を運んでくれ、3人でボルダリングを楽しんだ。今日は友人のメルヴィンと彼の彼女のスシと一緒にボルダリングをする予定だったのだが、昨夜メルヴィンからもらったテキストメッセージによると、彼は今日は午後過ぎまで仕事があるらしい。

メルヴィンは美容師として自分の店を構えており、一経営者として色々と忙しくしているのを知っている。先日フランスに休暇に出かける前までは、一日なんと平均して22人の髪を切っていたそうだ。彼にとって人の髪を切ることは天職であり、髪を切ることに客と話をすることが何よりも楽しいと彼は述べていた。そんな彼も、フランス旅行から帰ってくると、やはりこれまでの働き方が異常であったことに気づいたらしく、今は一日に平均で16人程度に抑えているそうだ。私からすれば、一日に16人も人の髪を切るなんて想像ができないが、メルヴィンはそれぐらいの人数であれば楽しみながら、なおかつ高い集中力を持って髪を切れるそうだ。

さすがのメルヴィンも、毎日22人の髪を切ることによって見えない疲労が蓄積されていたらしく、フランス旅行の前日にはエネルギーを使い果たしたような感覚になったそうである。翌日はなんとか回復し、フランスのフォンテーヌブローでのボルダリングをはじめとして、フランス各地の自然を楽しむことによって、エネルギーが回復したとのことであった。その話を聞く前に、店でメルヴィンの顔を見た瞬間に、エネルギーが全快しており、以前よりもエネルギーの絶対量が増していることを私は感じていた。自然の力は偉大である。

メルヴィンは、フランスのフォンテーヌブローをはじめとして、ピレネー山脈付近の自然も満喫することによって、自然から大いなるエネルギーを得たようであった。メルヴィンの彼女であるスシも仕事で疲弊していたらしかったが、フランスの自然から得られたエネルギーはメルヴィン以上とのことであり、フランスから帰ってきた後にフローニンゲンのボルダリングジムでボルダリングをした時には、それが顕著に表れていたとのことであった。それだけに、本日メルヴィンとスシと一緒にボルダリングを楽しめないのは残念だ。

今日は一人でボルダリングを思う存分に楽しもう。一人でボルダリングジムに行くとはいえ、今日もまた、ジムにいる見知らぬ人たちに声をかけ、コミュニケーションを楽しみながらボルダリングの研鑽に励みたいと思う。

今回の日本への一時帰国にも持って行く愛用のソイプロテインは、その性質上、吸収がゆっくりのため、朝の2回目のカカオドリンクを飲む際に、ソイプロテインを混ぜるようにする。プロテインを飲みながら作曲を行うというのは非常に微笑ましい組み合わせであるが、身体活動と創造活動は密接に結びついているのだから、それはあまりおかしいことではないかもしれない。いずれにせよ、本日の第6回目のボルダリングにおいても最大限の学びを得ようと思う。フローニンゲン:2019/9/21(土)
08:05

4970. 銀座滞在中の映画観賞について:今朝方の夢

早朝に行くことではなかったかもしれないが、東京に滞在中のどの日に映画館に足を運び、何を何時に見るのかを先ほど大まかに決めていた。今回は合計で4本ほどの映画をみたいと思う。宿泊先のホテルから日比谷のTOHOシネマズまでは目と鼻の先であり、朝から夕方まで一日中映画館とそ

の近辺にいるような日が生まれそうである。その日の夕方に最後の一本を見てから、TOHOシネマズから歩いてすぐの距離にある銀座のボルダリングジムに行く計画を立てている。

クライミングをテーマにしたドキュメンタリー映画だけ、TOHOシネマズでは上映されておらず、豊洲の映画館まで行く必要がるのだが、その映画を観る日を何時にするかをまだ決めかねている。調べてみると、銀座の宿泊先のホテルから豊洲の映画館まで歩いて45分ほどの距離であり、フローニンゲンの自宅からフローニンゲンのボルダリングジムまで行くよりも近い。ただし、この時期の東京はまだ半袖で過ごせるような気温のようであるから、それくらいの距離を歩くと汗を随分とかいてしまうかもしれない。そのあたりの兼ね合いを見て、電車で行くのか歩いていくのかを決めよう。残りの人生において日本で過ごせる時間がそれほどないことを考えると、是非とも散策がてら歩いて行きたいものである。

それではそろそろ早朝の作曲実践を行いたい。その前に、今朝方の夢について振り返っておく。夢の中で私は、小中高時代から付き合いのある親友(SI)とバスケットを楽しんでいた。二人でワン・オン・ワンをしたり、シュート練習などを楽しく行っていた。だがある時から一変して、彼の機嫌が悪くなり、怒りをあらわにするようになった。私にはその理由がわからず、彼の怒りが私に伝染ってきて、自分の内側にも怒りの感情のようなものが芽生え始めていた。すると、場面が変わり、私は小中学校時代を過ごした社宅の中にいた。

食卓には母と父がいて、母が私の分のコーヒーを作ってくれた。それを有り難く受け取ろうとしたところ、母が突然細長い紙筒に入った白砂糖の封を開け、それをコーヒーに流し込んだ。それを見て私は、「そんな体に悪いものを入れるのはやめてくれ」と指摘した。

私は別に感情を荒げていたわけではなく、至って冷静にそれを述べ、白砂糖が健康にもたらす害悪について説明をした。それを聞いていた父は、自分がこれまで白砂糖を何気なく使っていたために気分を害したのか、私に怒鳴ってきた。それに対して私は怒鳴り返し、結局コーヒーを飲むことをしなかった。そこで再び夢の場面が変わった。次の夢の場面は銃撃戦が繰り広げられていた。しかもそれは屋外ではなく、ある建物の中で行われていた。そこには日本人の姿は見えず、外国人ばかりであった。

私の射撃の腕前はプロ並みのようであり、近くにいた外国人に射撃方法を教えながら銃撃戦を行っていた。私たちの仲間と思われる男性が打たれ、その場でうずくまって息を引き取ったのだが、死んだ直後に魂が身体から抜け、その魂が再び肉体を持った。その男性は、自分が打たれてしまった原因はどこにあったのかを私に解説して欲しいとお願いをしてきた。その男性は英語を話せるようだったので、英語でその説明をすることにした。

その男性が殺されてしまったのは、端的には相手が悪かったと言える。彼を殺した相手は射撃の名手であり、射撃の技術が高いだけでなく、サイコパスの性質も持っていたため、余計に厄介であった。私は幾つかの観点から、どうすれば少なくとも命を守ることができたのかについて説明をした。そこで最後の場面に移っていった。

今朝方の夢の最後の場面は、最初のキャリアで働いていたオフィスが舞台だった。オフィスのフロアはワーキングスペースと会議スペースが仕切られており、私は自分のデスクから会議スペースの方に向かっていった。扉を開け、一つのミーティングルームに入ろうとしたところ、そこに上司の気配を感じた。年齢は一回りほど上の優しい上司がその部屋にいることを感じた私は、上司の邪魔にならないかを考えた上でその部屋に入ることにした。すると上司は笑顔で私に声をかけ、そこからしばらく同じ部屋で作業をした。

しばらくして、年次としては少し上の先輩の男性が部屋に入ってきて、私の名前を呼んだ。「加藤君にお願いしたいことがあるんだけど」ということであり、話を聞いてみると、ちょうど今海外オフィスから外国人のマネージャーか誰かが来ているらしく、その対応をお願いしたいとのことだった。特に断る理由もなく、面白そうだったので私はそれを引き受け、再び自分のデスクの方に向かった。デスクに戻っている最中、英語で独り言をつぶやいている自分がいた。フローニンゲン:2019/9/21(土)

09:14

4971. 明後日に迫る日本への一時帰国

目を覚ますとそこには新たな一日の始まりがあった。寝室のベッドの上で目を覚ますと、真っ暗闇が外の世界に広がっていた。闇が一日の始まりを告げている。そんな感覚が起床時にあった。

今日も不思議なことに新たな一日が始まった。ふと気づくと、明後日は日本に向けて出発する日となる。

久しぶりの日本への一時帰国の日が近づいてきた。滞在期間中は大いにのんびりしよう。確かにオランダの地でも、くつろぎの中で好きなことに没頭しながら毎日を過ごしている。今回の日本滞在は、そうした生活の延長にありながらも、非線形的な何かがありそうだ。

日本の秋を満喫するというのは実に4年振りである。いや、4年前の夏にオランダにやってきたから、日本の秋を感じるというのは実に5年振りのことになる。母国に足を踏み入れることはいつも複雑な感情を引き起こすが、今回はそうした感情を超える何かがある気がする。

自分がこの世に生まれた季節に日本に滞在できるということ。それを有り難く思う。

昨日、ボルダリングの6回目を楽しんだ。ジムに到着すると、先週知り合った日本人の青年がいた。彼はフローニンゲン大学の博士課程に在籍しており、25歳とまだ若い。専門は、分子生物学の観点からアルツハイマー病を研究することらしく、非常に興味深いテーマだと思い、少しばかり話を聞いていた。

博士号を取得した後について尋ねてみると、すぐにポスドクや就職することには関心がなく、1年間ほどかけて日本を旅行するとのことだった。そうした生き方に私は大変共感した。私も近い将来、日本をゆっくりと巡る旅に出かけたい。本当であれば、1年や2年かけてじっくりと日本を巡りたいところだが、オランダ永住権や欧州永住権の取得要件として、3か月以上オランダから離れることができないのがネックである。

オランダ永住権や欧州永住権取得後も、確か更新のためには欧州圏を3か月以上離れてはならないような決まりがあったように思う。そのように考えると、日本を巡る旅は数年間に分けて、毎回3か月以内にする必要がある。

日本への一時帰国に向けた準備は明日に行う。準備と言っても、欧州国内を旅行するときと持っていくものは変わらない。今回は、機内持ち込み用の小さなスーツケースしか持っていないので、荷造りも簡単だ。明日の午後に部屋の掃除をし、夕方に荷造りを行う。

今日は、明後日の朝に電車に乗る時に飲むコーヒーを買いに街の中心部のオーガニックスーパーに行こうと思う。そこで瓶詰めのオーガニックコーヒーを購入する。出発の朝は早く、駅構内のコーヒーショップが開くか開かないかの時間帯であるため、コーヒーを持参する計画を立てている。コーヒーに合わせて、出発前夜に食べる豆腐と、日本に到着後に食べるプロテイン豊富なクラッカーを購入しておこう。

今回の旅行においては、ソイプロテイン、ヘンプパウダー、カカオパウダー、ヘンプオイル、ココナッツオイルを持参する。毎日摂取している味噌については、日本に到着したその日に近所のオーガニック食品店で購入すればいいだろう。日本には合計で3週間ほど滞在する予定であり、その期間に自分の腸内環境が変わりすぎないように注意をしたい。普段と同じものをできるだけ摂取し、身体の状態を維持していきたいと思う。そうすれば、日本に滞在期間中は活動的になることが可能になり、久しぶりの日本を満喫できるだろう。フローニンゲン:2019/9/22(日)07:07

4972. 悟りへ至るゲームから解放されることを示唆する夢

昨日と同様に、今朝もまた雲ひとつない青空が広がっている。時刻は午前7時半を迎えようとしており、ちょうど今から朝日が姿を見せ始める。

穏やかな日曜日の朝の世界に小鳥の鳴き声がこだましている。それに静かに耳を傾けること。それもまたここ最近心がけているゆとりのある生活には欠かせない。

それでは早朝の作曲実践に入る前に、今朝方の夢について振り返っておきたい。端的には、夢の主題は悟りに至るまでのゲームとそのゲームからの解放だったように思う。夢の中で私は、1階にレストランやショップが入っているビルの中にいた。一見すると、それはオフィスビルのようにだった。

なにやら、今から鬼ごっこかつ、このビルから脱出するゲームが行われるようだった。私は2階のフロアにいて、手摺り越しに1階の様子をぼんやりと眺めていた。すると私の左横に、小中高時代の友人(HY)がいて、二言三言彼と会話を交わした。その後彼は、1階のフロアにいる見知らぬ人たちに向かって何かを語りかけていた。それは、彼らへの励ましの言葉であり、彼らはきっとうまく脱出できるというものだった。どうやらこの鬼ごっこには賞金がかかっているようであり、鬼役の人が参加者を捕まえると賞金がもらえ、逃げる役の人はビルから脱出できたら賞金がもらえるようだった。

ビルの最上階あたりから、ゲームの開始を告げるビープ音が鳴った。最初私は、上の階に向かって逃げようかと思ったが、まずは様子見として2階に留まり続けることにした。すると、鬼役の人たちが1階から上がってくるエネルギーに圧倒され、これはのほほんとしてはいられないと思い、上の階に向かって階段を登っていくことにした。

6階か7階あたりであっただろうか、その階段の踊り場には不思議な小窓があった。私はすぐに窓の外に出て行き、そこに広がる無限の空間に驚いた。しかも、ひとたび窓の外に出ると、私の体は宙に浮いていたのである。厳密にはその踊り場の四方に4つの窓があり、鬼役の人が一つの窓を開けるたびに、私は彼らに姿を見られないように、そっと宙を移動した。そのおかげか、彼らには気付かれずに済んだ。

しばらく窓の外の空間にいた後に、再度ビルの中に戻ることにした。最上階の様子も気になったため、上の階を目指して階段を登っていくと、そこで小中高時代から付き合いのある親友(SI)に遭遇した。彼は突然ながら、今からテレビゲームを一緒にやろうと持ちかけてきた。見るとその場にはゲーム機があり、懐かしの格闘ゲームがセットされていた。

面白そうだったので、彼とゲームを楽しむことにした。ゲームが始まってみると、彼は意外にもなかなかうまく、最初は相当に苦戦した。彼が扱うキャラクターにダメージを与えることはほとんどできず、一方で私が扱うキャラクターは相当にダメージを受けていた。このままいけば最初の試合は負けてしまうと思った時、不思議な底力が発揮され、見事に逆転勝利を収めた。彼はとても悔しがっており、二試合目にはリベンジをすると意気込んでいた。

しかし実際に二試合目が始まってみると、私が扱うキャラクターは無傷のまま圧勝した。負けた彼は、完敗の方が清々しいと言わんばかりに笑顔を見せた。そこで私たちは一旦ゲームをやめ、このビルから脱出するゲームに集中することにした。ビルの中がやたらと静かになったので、私たちは一階に降りることにした。

螺旋階段のように入れ組んだ階段を下って行くと、下から上に登ってくる人たちの姿があった。「彼らは鬼か?」と思ったが、どうやら逃げる側の人たちのようだった。階段で彼らとすれ違った際に、

「幸運を祈ります」とお互いに言葉を交わした。彼らは上の階に向かうことに意気込んでいたが、不思議と私にとって、1階に降りることができたらこのゲームから解放されると思っていた。

確かに、1階は鬼から見たら見晴らしの良い場所なのだが、そのフロアに足を着けた瞬間にゲームを終わらせられる確信が私にはあった。1階に到着すると、そこは平穏な雰囲気であふれていた。辺りを見渡すと、お洒落なオフィスビルに入っているような落ち着いたカフェやレストランがいくつかもあつた。そのうちのカフェに近づくと、そこに小中学校時代の女性友達(AS)があつた。

彼女に話しかけると、コーヒーでも飲みながらくつろごうということになった。彼女はコーヒーとケーキを注文し、私はコーヒーだけを注文した。そのカフェでコーヒーを飲んでいると、案の定、鬼役の人が何人かやってきて、私に声をかけた。

鬼役の人:「ゲームの参加者の方ですか？」

私:「ええ。ただもうゲームからは解放されました」

鬼役の人:「そうですね。おめでとうございます。では、私たちは引き続き参加者を捕まえたいと思いますので、ここで失礼します」

そんなやり取りが平穏な雰囲気の中でなされた。私はそのゲームから解放されたという強い実感があつた。先ほどまでは階段を急いで登ったり、降りたりを繰り返して、誰ともわからぬ鬼から逃げるゲームをしていたが、もうそのゲームをする必要はないと確信していた。

友人の彼女としばらく会話を楽しみ、カフェから離れようとしていたところ、隣の店のお土産屋の会計テーブルの上に、何種類かの綺麗な包装紙が販売されていた。そのフロアで購入したお土産をその包装紙に包んで誰かに贈ることができるらしかった。確かに、その綺麗な包装紙に包まれたお土産を受け取った人はさぞかし喜ぶだろうと想像できた。私は一瞬、母か誰かに何か贈り物をしようと思って包装紙を購入しようと思った。

私がいいなと思ったのは、30円ほどの包装紙であった。しかし、肝心のお土産を何も購入していない私にとってみれば、包装紙だけを購入することは無駄だと思った。結局包装紙を購入することをやめ、ビルの出口に向かって歩み始めたところで夢から覚めた。

この夢は印象的であり、改めて思い出すと、やはり主題は悟りへの階段を登っていくことと、悟りからの目醒めであったように思う。夢の中では、上昇の道と下降の道がモチーフとして現れており、悟りに至ろうとすることおよび悟りから解放されることがゲームとして象徴されていた。

夢の中の私は、躍起になって階段を登っていく人たち、各フロアの中で鬼から懸命に逃げ回る人たちの姿を眺めていた。確かに私自身も階段を懸命に登り、鬼から逃れることに意識を集中させていたことはあったが、ある瞬間に醒めがやってきたのもまた確かである。特に印象的なのは、夢の後半において、1階に向かって階段を降りていく時の心境である。自分を制約する大きな足かせから解放されたという安堵感があった。それは途轍もなく大きな安堵感であり、安堵感を超えて涅槃の世界と一体化したかのような感覚があった。

そういえば、上記においてそのゲームは、私が2階にいた時に始まったかのように描写していたが、厳密には1階にいた時に始まっていたように思う。1階からゲームが始まり、最上階に向かって階段を上がり、再び1階に戻ってくる。それはどこか十牛図の描く世界のように思えてくる。

最後に、購入を迷った包装紙についても色々と思うことがある。悟りとは本来無料のものであり、悟りに至ったからといって何も土産などいらないのだということを考えさせられる。悟りに至った際の記念品は不要であり、それを誰かに贈る必要もなく、黙って再びこの世界で生きていけばいい。そんなことを思わせてくれる夢だった。

日曜日の朝のフローニンゲンに至極平穏だ。そう、今ここに涅槃が広がっていることを忘れてはならない。フローニンゲン:2019/9/22(日)08:08

4973. 明日に迫った一時帰国

今朝は午前4時に起床し、時刻は今、5時に向かいつつある。明日はいよいよ日本に一時帰国する日となる。

アムステルダムからヘルシンキに向かうフライトは正午前とそれほど早くないのだが、空港のラウンジでゆっくりしたいのと、フローニンゲンから空港までの時間を考えて、明日は早朝の6時過ぎに自宅を出発することになっている。明日もまた今日と同じぐらいの時間に起床しようと思う。そうすれば朝に日記を書く時間もあり、ゆとりを持って出発できるだろう。

明日の朝の出発を楽にするためにも、今夜中に、持参するオイル類を小瓶に詰めたり、その他の荷造りを完成させておこうと思う。今回は大阪で二日間ほど仕事をする事になっているため、スーツを一着とワイシャツを二着持って行こうと思う。シューズに関しては重くなってしまうので別途持っていくことはせず、カジュアルとフォーマルの両方で使えるシューズを履いていくことにする。また、オランダから日本に向かうまでの間は寒く、日本ではジャケットなどいらないような気温であることを考えると、スーツを手で持っていくのではなく、インナーはカジュアルなものにして、スーツを上下着て行ってしまおうと思う。

このアイデアについては随分前の日記で書き留めており、タンスの中に眠っているスーツがもっていないため、普段の私生活においてもそれらを時々着るようにしている。オランダに来てから仕事でスーツを着用する必要がなくなったことに伴い、日本で作ったオーダーメイドのスーツが活躍する機会はめっきり減ったが、このようにプライベートでカジュアルな服と組み合わせて着用することによって、なんとかその活躍の場を与えるようにしている。

天気予報を調べてみると、明日の朝に自宅を出発する時間帯はちょうど気温が低いいため、ジャケットを羽織っていくことが望ましい。最近ではめっきり寒くなり、朝に通勤や通学で自転車をこぐ人たちは冬用のジャケットのみならず、マフラーや手袋を着用している姿もちらほら見かけるほどだ。一方で、日本はまだ半袖で過ごせそうな気温のため、日本に向かう機内の中で、日本に到着する間際になったら半袖に着替えようと思う。スキポール空港(アムステルダム)とヴァンター空港(ヘルシンキ)のラウンジでの過ごし方などについても書き留めておくべき細かなことがあるが、それは明日に書き留めることとする。

フローニンゲンからスキポール空港に向かう最中には日記の執筆と、過去の日記の編集をしようと思っているため、その時に二つの空港のラウンジでの過ごし方について確認も含めて書き留めておく。いよいよ明日から3週間強の日本滞在が始まる。フローニンゲン:2019/9/23(月)05:07

4974. 一時帰国に際して：和書の購入に向けた書店巡り

明日から3週間ほど日本に一時帰国することに伴い、今日は午後から部屋の掃除をしようと思う。リビング、寝室、キッチン、浴室の全てを綺麗にしておく。また、枕カバーやシーツなども洗濯しようと思う。掃除に関しては、午後の仮眠を取り終えてからにしたい。それまでの時間は、いつもと変わらずに創造活動に従事する。掃除を終えて、時間が余っていれば、そこからさらにYoutubeチャンネルのための動画を作りたい。そして夕食後には荷造りを行おう。

今回日本に一時帰国するに際して楽しみなのは、もちろん美術館やボルダリングジムを巡ることだが、それ以外にも、久しぶりに和書を購入することもある。すでに幾つかの和書はアマゾンを経由で購入しており、実家に送っている。それら以外にも目星の書籍があり、実際に手に取って眺めてみたい書籍も多々あるため、それらは東京の大型書店に行って、実際に自分の目で確かめてから購入したいと思う。それらは全て作曲に関するものかボルダリングに関するものである。

もうその他の書籍についてはほぼほぼ関心がない。以前の自分であれば、大型書店に足を運ぶと哲学思想関連のコーナーや、自分の専門領域に関するコーナーに足を運んでいたが、今回はそのようなことをすることは無いと思われる。

宿泊先の銀座のホテルからは、三省堂有楽町店や八重洲ブックセンターが近く、丸善丸の内本店も歩いていける距離にある。それらの書店に立ち寄り、作曲とボルダリングに関する書籍で自分に響いたものを購入したい。日本に滞在中には、購入した全ての書籍を少なくとも一度読み通し、再読時からは、書籍で得られた事柄を自分の言葉で説明する形でYoutubeチャンネル用の動画に活かしていく。昨夜もふと思ったが、この実践はとても大事だ。自分の作曲技術やボルダリング技術を高めることはもちろん、作曲やボルダリングに関心のある人に知見を共有する意味でも意義を見出している。

作曲に関しては、現在幾つかの洋書を参考にして作曲基礎講座の動画を作っている。それがひと段落したら、対位法、フーガ、ハーモニーなどの少々難しい理論書に移っていこうと思っていたが、もうワンクッション挟む方が良いかと考えを改めている。

日本に一時帰国する際には、銀座近郊の大型書店、および神保町にある音楽専門の古書店である古賀書店に足を運び、幾つかわかりやすく、それでいて中身の濃い専門書を購入したい。そうした専門書の中に掲載されている具体例をひとつひとつ取り上げていき、自分の言葉でポイントを解説することを行っていきたい。具体例の一つに対して一つの動画を作り、ポイントをできるだけ丁寧に解説していく。こうしたことを愚直に行っていけば、自分の理解が深まることは間違いない。これは作曲に関してだけでなく、ボルダリングに関しても行っていく。日本に滞在中は、このあたりのことを積極的に行っていこうと思う。フローニンゲン:2019/9/23(月)05:34

4975. 今朝方の夢:ダイモーンの要求事項

時刻は午前6時を迎えようとしている。つい先ほどから、しとしとした雨が降り始めた。今日はどうやら夕方まで雨が降るようだ。幸いにも、日本に一時帰国する明日の朝は雨が降らないようであり、自宅から駅までの道のりを歩くことを楽しめそうだ。

真っ暗闇の世界の中を降りしきる雨を眺めている。それはそれで一興ある。

今朝方の夢についてこれから振り返り、それが終わったら早朝の作曲実践に取り掛かりたい。ゆとりのある心でゆっくりと曲を作っていこう。

今朝方の夢は、主に小中高時代の友人が何人か登場し、彼らとのやりとりの中で進行していった。夢の中で私は、実際に通っていた中学校のバスケットコートにいた。どうやら部活の時間らしく、私はバスケット部のメンバーたちと一緒にバスケットの練習をしていた。先輩の姿も後輩の姿も見られず、その場にいたのはどうやら同学年のメンバーだけだった。

バスケット部のキャプテンを務めていた私は、まずは集合をかけ、今日の練習の大まかな方針をメンバーに伝えた。その後、コートのを何周か走り、準備運動を始めた。

準備運動が終わると、そこからはフルコートを使った1対1の練習を始めた。私の相手は、親友の一人(HO)であり、私はいつも彼とこの練習をしていた。何度かその友人と1対1の練習をした後に、今度は相手を変えて、別の友人(SS)と1対1をすることにした。私が攻める番の時、一気に反対側のコートまでドリブルをしていくと、ゴール前にまた別の友人(KM)が待ち構えており、実質上1対2の

練習となった。特に私はそれを気にすることなく、その友人も交わしてゴールを決めようと思った。だが、思っていた以上に彼のディフェンスは固く、シュートブロックの高さも高く感じられた。そうしたこともあり、幾分苦戦したのだが、なんとか最終的にはシュートを決めてその練習を終えた。

次の夢の場面では、私は作曲を行っていた。自分の頭の中に音楽のイメージが川の流れのように想起され、それを音楽言語を用いて曲の形にしていくということを行っていた。その最中、私は創造に伴う喜びの中に浸っており、多大なる幸福感を感じていた。

今朝方はそのような夢を見ていた。実際にはどちらの夢に関しても、もう少し描写があったように思う。特に後半の夢に関して言えば、目覚めた瞬間には、どのような曲を作っていたのかの感覚があった。言い換えると、曲のメロディーやハーモニー、そしてイメージなどが残っていたのである。

こうした夢を見るたびに思うが、記憶に残っている曲の印象を是非とも長らく自分の内側に留めておきたいものである。あるいは、それらを実際の曲の形にしたいと思う。今後はより真剣にその方法について模索していく必要があるようだ。夢の中で生み出された曲の中に、自分の創造性の本質がありそうなのだ。それらを何としても形にしていく道を模索しよう。それは内側からの、あるいは自分のダイモーンの要求事項である。フローニンゲン:2019/9/23(月)06:08

4976. 一時帰国の準備が整って

時刻は午後の8時を迎えようとしている。つい先ほど、明日の一時帰国に向けた荷造りが完成した。これにて明日の朝は余裕を持って自宅を出発できるだろう。今回は身軽さを重要視し、機内持ち込みのスーツケース一つだけで帰国することを決めているため、結局Youtube動画の撮影用の外付けマイクと、書籍を読む際の手見台を持っていくことを止めた。

日本の一時帰国の際に和書を数冊購入し、そのうち多くはオランダに持って帰りたいと思っているため、できるだけスーツケースは余裕を持たせた状態にしておく。行きに持っていくソイプロテインやカカオパウダーなどは全て日本で使い切ることができるだろう。また、大阪での仕事の際に着用する二着のワイシャツに関しては、クリーニング後、実家に置いておこうと思う。そうすれば、スーツケースはさらに余裕が生まれ、そこに書籍を詰めることができそうだ。

本当であれば外付けマイクを使って、高音質でYoutube動画を撮影したかったのだが、マイクは重たくかさばるため仕方ない。また、書見台に関しても肩こりなどを考えると、本来であれば読書に必須の道具なのだが、それもまたかさばるため、今回の旅には持っていかないようにした。

今、開かれて床に置かれたスーツケースを眺めながら、忘れ物がないかを再度確認している。仕事で使うスーツに関しては、オランダは寒いので、明日の朝にそれを着ていく。

日本では合計5カ所のボルダリングジムを巡る予定であり、ボルダリング用の衣服を入れ、マイシューズも入れた。ボルダリングのみならず、旅の最中にはよく歩くため、プロテインを補給するためのプロテインシェイカーもスーツケースに入れた。パリで購入したモDEST・ムソルグスキーの二冊の楽譜のうち、一冊に掲載されている曲の全てがもう一方の楽譜に全て掲載されていたため、一冊を母にプレゼントしようと思っている。その楽譜もスーツケースに入れた。

今回は欧州国内の旅行ではなく日本への旅行のため、オランダで購入した電動歯ブラシのチャージのためのアダプターもスーツケースに入れておいた。日本とオランダは電圧が違うため、変換器が必要なのである。その他の必要品は欧州国内の旅行と同じため、忘れ物はなさそうだ。いや、あと一つ日本円を忘れずに持っていく必要があった。

先ほど有り金を全てかき集めたところ、現金として1,038円があった。クレジットカードがあるため、これくらいの金額で十分だろう。最悪キャッシュカードを使ってATMで降ろせばいいだけのことである。明日の朝、再度忘れ物がないかを確認して、午前6時過ぎには自宅を出発しよう。

今日は9時頃に就寝し、今朝と同じように午前4時に目覚めようと思う。そうすれば、かなり余裕を持って自宅を出発できるだろう。明日からの久しぶりの日本滞在が楽しみだ。フローニンゲン：

2019/9/23(月)20:10

4977. 【日本滞在記】一時帰国に向けた出発の朝に

いよいよ日本に一時帰国する日の朝を迎えた。予定では午前4時に起床しようと思っていたが、昨夜は9時過ぎに就寝したこともあり、3:45に起床することができた。目覚めの状態はすこぶる良く、すぐにでも活動に従事できるようなエネルギーの充満状態があった。

起床後、オイルプリングをしながらヨガを行い、その後、朝風呂を楽しんだ。ゆっくりと浴槽に浸かって体を起こし、ゆったりとした気分の中で、今日からの日本滞在について思いを巡らせていた。

なんやかんやいえ、私は日本の一時帰国をとても楽しみにしているのだということに気づかされる。もちろん、毎回の帰国のたびに複雑な気持ちにさせられるのは確かだが、それでも他国に訪れるのとは違う感慨深い感情が内側から湧いてくる。今もそのような状態にある。

予定よりも早く起床したこともあり、自宅を出発するまでの時間がよりゆとりあるものになった。今回の日本滞在の際には、これまで以上にゆとりのある生活を心がけていく。ここで一度、本質的なゆとりが体現された生活を実現させていきたい。自分のライフワークにより邁進するためにもゆとりは不可欠である。これは不思議な関係である。

深いゆとりがあるからこそ、自分のライフワークに深く入り込んでいけるような気がする。今年から来年にかけてゆっくりと進められている生活上の大きなシフトは、日本に滞在中もゆっくりと進行していくだろう。

とにかく自分のライフワークにのみ自分の時間を当てていく。無駄な人間関係は一切避け、本当に大切な人との人間関係を深めていく。

日々は、自己を捧げた実践のためにある。今日から再び心を入れ替えて、自分の活動を深めていこう。

自宅を出発する時間は6:10を予定している。自宅ですることがなければ、早めに駅に到着してしまってもいいかもしれない。アムステルダムスキポール空港に向かう列車の出発時刻は6:48だが、大抵15分ぐらい前にはプラットフォームに列車が到着しているので、予定よりも気持ち早く出発するぐらいがちょうどいいだろう。列車の中ではまた日記を執筆するかもしれない。日記の執筆をした後は、列車の中で作曲実践をする。

今回日本に持参する楽譜は、ブラームスの変奏曲が収められたものである。それと母への土産として、ムソルグスキーの楽譜もある。基本的には母に贈る楽譜はスーツケースに入れたままにする予

定だったが、スペースがあれば持参するリュックサックに入れて、ブラームスの楽譜と併用してもいいかもしれない。

日記の執筆や作曲実践をしていれば、フローニンゲンからスキポール空港までの2時間はあっという間だろう。過去の日記の編集については、それはあまり集中力がいないものなので、早朝の時間に行うのではなく、昼前に出発するヘルシンキに向けた飛行機の中で行おうと思う。

心のゆとりと時間的なゆとりを豊かに持ちながら、自分ができることを世界のどこにいても行っていく。自らのライフワークに専心し、それと一体になること。それを真に実現させる足がかりを得るために、今回母国の大地を踏むのかもしれない。フローニンゲン:2019/9/24(火)04:44

4978. 【日本滞在記】一時帰国の朝に見た夢

時刻は午前5時を迎えようとしている。どんなに時の河の流れが早くても、自分の内側の時の流れは緩やかにしていく。人生の進行と自分の内側の時の流れの歩調を合わせれば、間違いなく時は止まる。少なくとも、時の流れは今よりもずっと緩やかに感じるはずだ。

風呂から出た4時から5時にかけての時間の流れはとても早かった。上記の内容と紐づけると矛盾しているように聞こえるかもしれないが、この1時間が早く感じられたのは、人生の進行と自分の内側の時の流れの歩調が合致していたからだと思う。

時が流れている間は時の流れを感じることはなく、時がある一定量経った後に、時が経っていたのだと気づく感覚。それがある。

今日からはこれまで以上に、自分の時間を大切にしよう。他者の時間を大切にするために、自分の時間を何よりも大切に。自分の時間を大切にするために、他者の時間を何よりも大切に。そうした意識の中で日々を過ごしていく。

積極的な関与と不関与の双方を実現させていく。自分の人生に与えられた役割を全うするために、積極的な関与と不関与の双方を行う。関与と不関与の対象は、徐々にその輪郭をあらわにしてい

る。その外形を真に掴んだ後には、関与と不関与を徹底させていけばいい。まだ夜が明けぬ闇の世界の中でそのようなことを考える。

日本に一時帰国する出発の朝もまた夢を見ていた。夢の中で私は、小中学校時代の友人たちと一緒にバスケットをして楽しんでいた。そこには男友達だけではなく、女友達も数多くいた。男女混合でチームを分け、とても楽しげにバスケットに興じていた。しばらくバスケットを楽しんだ後、私は一旦試合から離れ、コート脇で給水をしていた。その間にもみんなはバスケットを楽しんでおり、その様子をコート脇から眺めていた。

改めて、素晴らしい友を持ったものだ感慨深い気持ちになっていたところ、私の足元にボールが転がってきた。そのボールを一方のチームの友人に渡そうとしたところ、先ほどまで試合をしていた相手チームに彼がいることを思い出した。

味方チームの友人もボールのところに歩み寄り、ボールを欲しがっている。どちらのチームのボールからゲームが再開されるのかわからなかった私は、最初味方チームの友人にボールを渡そうとしたが、あえて相手チームの友人に渡したほうがゲームが面白くなるに違いないと思い、相手チームの友人(SS)にボールを渡した。

軽く放り投げられたボールを彼はキャッチし、そこからゲームが再開された。彼のドリブルを眺めていると、以前よりもドリブル技術が向上していることに驚いた。また、彼はらしくないトリッキーなパスも出せるようになっており、それもまた興味深く眺めていた。

そこで夢の場面が変わった。今朝方にはその他にも夢を見ていたように思う。だが、それらの夢のたいていは、もう記憶の彼方にある。ひょっとすると、それは日本に届いているかもしれない。日本の集合意識の中に自分の無意識化の現象が溶け込んでいき、日本に帰ってから、今朝方の夢の続きを見ることも十分に考えられる。

そろそろ荷物の最終確認をし、荷造りを完成させたい。荷造りが完成して時間が余れば、音楽理論関係の書籍に目を通そう。隙間時間に繰り返し理論書に接することによって、徐々に理解を浸透拡張させていこう。そうした地道なことを、何年も自分の専門領域に対してやってきたではないか。フ

ローニンゲン:2019/9/24(火)05:15

時刻は午前6時半を迎えようとしている。幸いにも、私はすでにスキポール空港に向かう列車の中にいる。列車はまだフローニンゲン中央駅に停車しており、出発まであと20分弱ある。今朝は4時前に起床したおかげもあり、自宅を出発するまでの時間にゆとりがあり、出発がスムーズであった。そのため、フローニンゲン中央駅に思っていたよりも早く到着した。いつも私は駅まで歩いており、今朝もまた夜明け前のフローニンゲンの雰囲気を楽しんだ。

いつも通る道。旅に向かう時にいつも通る道をゆっくりと歩きながら、旅に出かけるごとに、そして旅から戻って来るごとに新たな自分が誕生していることに気づく。その証拠に、先ほどまでフローニンゲンの街を歩いていた私は、前回旅行に出かけた時とは異なる眼でこの世界を眺めていたのだから。

旅が自己を育み、自己が旅を育むという双方向性。片方から片方への働きかけではなく、双方が影響を与え合っている。

スキポール空港に向かう列車の中には、これから旅に出かけようとしている人の姿をちらほら見かける。彼らが持っている大きなスーツケースがそれを示している。

先ほど早くプラットフォームに到着したため、列車には誰もまだ乗っていなかった。この季節になるともう、寒さ対策のため、列車の扉は自分で開けなければならない。扉が閉まっていて、乗客が乗り降りする際には押しボタンで開ける必要があるのだ。扉を開け、進行方向と同じ向きの席を確保した。時々進行方向と逆向きの席に座らざるをえない時もあるが、今日は進行方向と同じ向きだ。そのおかげで、スキポール空港に向かうまでに広がっている、オランダの長閑な風景を十分に楽しむことができるだろう。持参したオーガニックコーヒーをちびちびと飲みながら、早朝のオランダの田園風景を味わいたい。

列車はあと10分ほどで出発する。まだ6時半だというのに、乗客が次々と乗ってくる。とはいえ、日本の満員列車とは異なり、ほぼ間違いなく列車には座れる。二人がけの席を今は一人で使っており、これからどれくらい乗客が増えてくるかわからないが、おそらく一人でそれを使うことができるだろう。続々と乗客が乗っているとんでも、それぐらいの混み具合だ。

通路を挟んで反対側の席に座っているオランダ人の女性は、どうやら旅行客ではないようであり、これから会社にでも働きに出かけるのだろうか。その女性はコーヒーを片手に、窓の外をぼんやりと眺めている。

朝のこの落ち着き。この地では、人々はそれぞれの人生を自分なりのペースで謳歌している。決して焦ることなく、ゆとりが体現された生活がここにある。彼らにはゆとりという言葉が不要なぐらいにそれはゆったりとしている。

旅行のためではなく、通勤のためにこの列車に乗っている人の表情は穏やかである。決して陰鬱な感じはしない。みんな思い思いに自分の好きなことをしながら列車の出発を待っている。コーヒーを飲んでいる人。新聞を読んでいる人。スマホを眺めている人。窓の外をぼんやりと眺めている人。寝ている人。パソコンを開いている人。私は日記を執筆しており、これから列車の中で一曲を作る。列車の中に滲み出ている人々の人生を表すような曲を作りたい。いよいよ列車が出発だ。スキポール空港に向かう列車の中:2019/9/24(火)06:42

4980. 【日本滞在記】スキポール空港に向かう列車の中で

時刻は午前8時半を迎えた。列車が出発してからもう少しで2時間となる。あと20分ほどでスキポール空港に到着する。列車に乗っている間は、ずっと作曲実践をしていた。持参したブラームスの楽譜を頼りに、2曲ほど作っている自分がいた。

日記の執筆よりも作曲を優先させている自分の姿を見ると、作曲という音楽言語を通じた日記の執筆に絶えず従事している自分がいることに気づく。人生が遊(ゆう)の境地に入り始めている。日記を執筆することは遊であり、作曲もまた遊である。自ずから、人生もまた遊となる。

窓の外を眺めることを忘れてしまうぐらいに作曲に没頭している自分がいた。確かに列車のテーブルのスペースは狭いが、それでも作曲できるだけのスペースがあるだけ有り難い。そして何より、自分の心のスペースが豊かであることを忘れてはならない。これがなければ、どれだけ外部環境が整っていたとしても、作曲などできないのであるから。

スキポール空港に向かう列車の進行は順調である。もう少しで列車は、スキポール空港の一つ前の停車駅である南アムステルダム駅に到着しそうだ。

小鳥たちの群れが空を舞い、長閑な田園風景が見える。長閑な景色を眺めていると、思わず口笛を吹きたくなってしまふ。実際に先ほどは列車の中で口笛を吹いている自分がいた。そういえば先日は、街の中心部のスーパーに買い物に行った帰りにも口笛を吹いている自分がいた。偶然にも、前方から自転車でやってくる青年も口笛を吹いており、私は彼の口笛にハーモニーをつける形で口笛を吹き始めた。そんな微笑ましい光景が蘇る。

スキポール空港に到着したら、速やかにセキュリティーゲートを抜ける。いつものように、今回もAspireラウンジにお世話になる。セキュリティーゲートを速やかに抜けることができれば、およそ2時間ほどはラウンジでゆっくりできるだろう。ラウンジのエスプレッソをゆったりと飲みながら、先ほど作った2曲に対する解説動画を作ろうと思う。また、ボルダリングに関するYoutubeチャンネルのための動画も何か撮影していいかもしれない。

日本人のいないラウンジで日本語を話すことは少し抵抗があるが、いついかなる時でも創造活動に従事していこうという意志のもと、ラウンジでも動画の作成を楽しむ。動画の撮影が落ち着いたら、本日3回目の作曲実践に入ろう。この分だと今日は、もう何曲か曲を作れそうだ。

朝の集中力が高い時間帯にできるだけ曲を作っておき、夜のフライト中は楽譜を眺めたり、作曲ノートを読み返すことなどに時間を充てたい。そして何より、今回のフライトでは睡眠をしっかり取ろうと思う。熟睡できなくても、目を長らくつぶっていれば、眠りの意識に落ちていき、治癒力を持つ眠りの世界に入れるはずだ。スキポール空港に向かう列車の中:2019/9/24(火)08:46